

福島市公共施設の 戦略的再編整備検討委員会

【第1回会議】

と き 平成30年5月29日(火)

ところ 福島市役所4階 庁議室

1 委員会の役割について

(1) 本委員会の役割は、

- ① 中心市街地活性化区域内に立地している老朽化した公共施設、
- ② 建設を延期している市役所本庁舎西棟、
- ③ 整備を検討しているコンベンション施設に加え、
- ④ サッカースタジアム及び福島駅新東西自由通路について、

再編整備の基本的な方向性(優先順位付けを含む)や再編整備に伴う官民連携の可能性を検討し、年内に検討結果を市長へ報告すること。

(2) 検討にあたっては『中心市街地将来ビジョン検討委員会』と連携を図り、本委員会として上記公共施設の全体的な整備方針(必要な施設機能、施設配置の大まかなゾーニング等)を取りまとめる。

※ 『中心市街地将来ビジョン検討委員会』では、本検討委員会での検討結果を踏まえ、公共施設以外の都市インフラも含め、まちづくりに必要な機能を面的に整理・検討し、図案化資料を作成

※ なお、各施設の詳細な整備や機能の検討は、別途、各検討委員会等で行う予定

(3) (2)の検討結果を踏まえ、年内に再編整備の青写真を市が決定・公表する。

2 福島市の推計人口について

●平成22年推計人口 292,590人

→2,040年(平成52年)には226,623人に減少

●人口の変化が将来に与える影響

①生産年齢人口の減少による経済活動の停滞

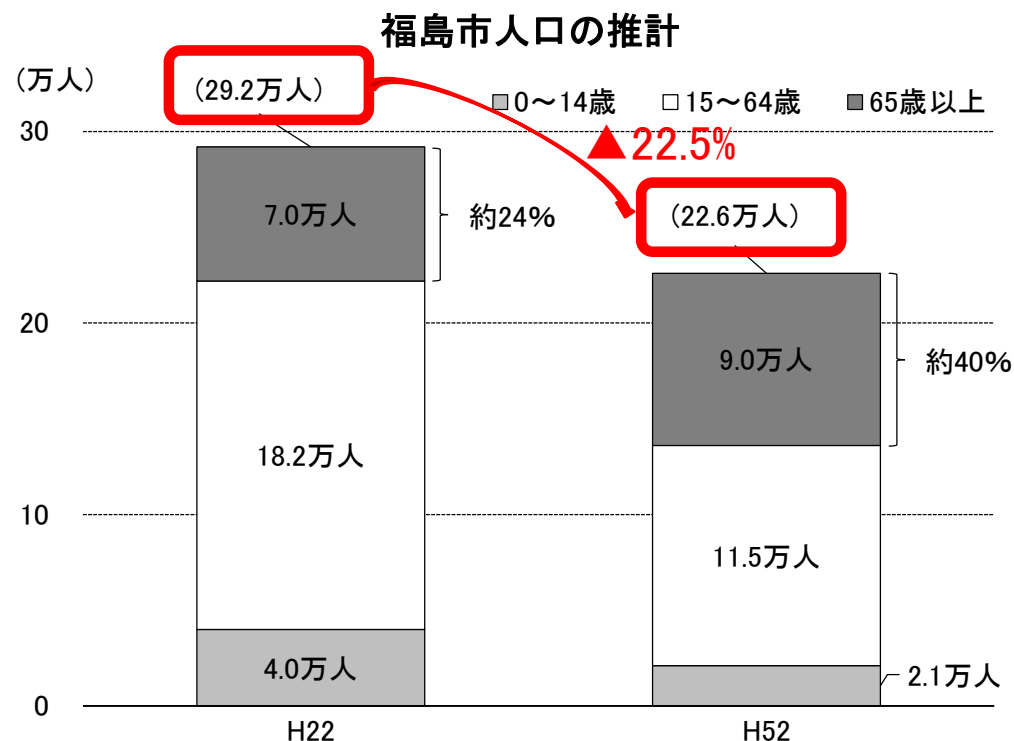
②人口減少に伴う年間消費支出の減少

→年間772億円の個人消費消失

③税収への影響

→個人市民税約42億円の減少

④高齢者の増加による社会保障費の増大



3 福島市の中期財政収支見通しについて

- 「福島市総合計画」後期基本計画第3期実施計画との整合を図ったうえでH34までの一般会計の財政見通しを試算したものの。

(単位:億円)

区分／年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度
歳入・歳出合計	1,708	1,251	1,190	1,099	1,124
財源不足額	△10	△27	△16	△4	△10
財政調整基金 残高	64	40	27	26	21

※別紙 中期財政収支見通し(平成30年3月) 参照

4 福島市公共施設等総合管理計画について

○福島市公共施設等総合管理計画 [概要版] より

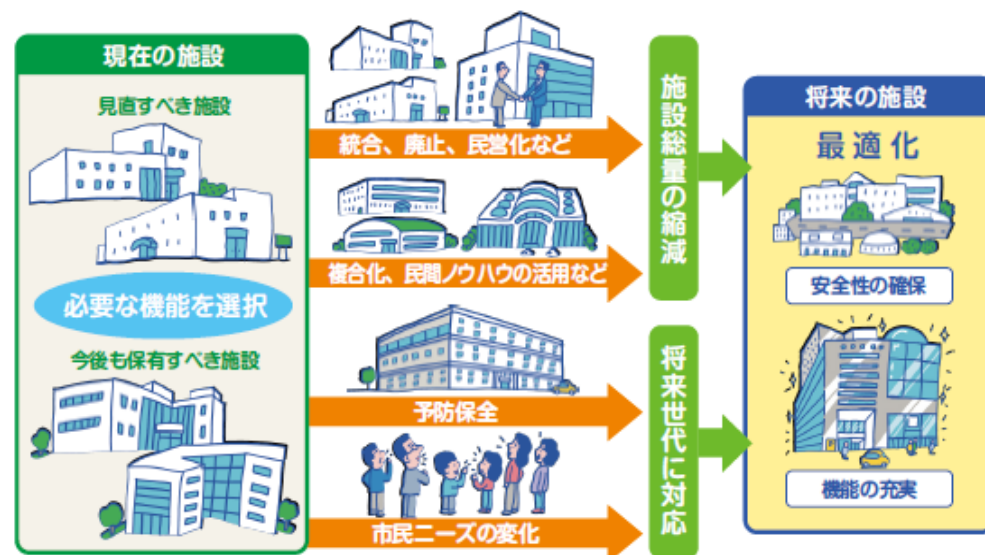
基本方針1 : 経営的視点による総合的かつ計画的な管理
⇒ 保有する施設を市全体として捉え、必要な機能を選択

基本方針2 : 施設総量の縮減

- ① 施設の統合、複合化、廃止等による配置等の見直し
- ② 災害時に必要な機能の確保
- ③ 新規整備の抑制
(ただし、社会情勢の変化等により新たな需要に応える場合は、複合化等により施設の総量抑制を図る)

基本方針3 : ライフサイクルコストの縮減と平準化

- ① 予防保全・長寿命化
- ② 効率的な施設等の管理運営



(図) 計画の展開イメージ

5 老朽4施設の状況について

①公会堂(昭和34年竣工:築59年)



【施設基礎情報】

所在地 :福島市松木町
構造 :地上3階・地下1階(SRC造)
延床面積 :4,259㎡
駐車場 :45台
設備 :ホール1,273席/楽屋控室4室

【施設概要】

本市の集客施設の中核として長年親しまれてきたシンボリック施設で、演劇や舞台の鑑賞会、各種講演会をはじめ、市民芸術活動の発表の場として多くの団体に利用されてきた。

【施設現況】

- ①施設老朽化により、平成30年3月末をもって休館
- ②新耐震基準に不適合

【利用状況】

- ①年間利用者は約6万人、ホール平均稼働率21%
- ②年間運営費約5千万円
- ③立地状況はバス路線・幹線道路沿線外
- ④市内類似施設

パルセいいざか(1,940席)、県文化センター(1,752席)、福島テルサ(473席)、音楽堂(1,002席)等

5 老朽4施設の状況について

②市民会館(昭和46年竣工:築46年)



【施設基礎情報】

所在地 :福島市霞町

構造 :地上6階・地下1階(RC造)

延床面積 :6,547m²

駐車場 :100台

設備 :ホール×2 / 会議室×19 / 茶室茶道室
×2 / 華道室 / 料理教室 / 音楽室

【施設概要】

本市の基幹的集会施設として、長年市民の集会等に利用されてきた。

【施設現況】

- ①築46年経過により施設老朽化が進行
- ②新耐震基準に不適合(避難所指定あり)

【利用状況】

- ①年間利用者は約19万人、全館平均稼働率42%
- ②年間運営費約1.3億円
- ③バス路線・幹線道路沿線に立地している
- ④施設内に「さんどパーク」、「敬老センター」が併設
- ⑤市内類似施設
アオウゼ、福島テルサ、中央学習センター 等

5 老朽4施設の状況について

③ 図書館本館(昭和33年竣工:築59年)



【施設基礎情報】

所在地 : 福島市松木町
構造 : 地上3階(RC造)
延床面積 : 2,694㎡
駐車場 : 20台
蔵書冊数(H27末) : 本館436,129冊
全館910,241冊

【施設概要】

市民の教育と文化の振興を図るために設置され、図書館分館と各学習センター図書室を取りまとめる、**中央館としての機能**を持つ

【施設現況】

- ① 築59年経過により施設老朽化が進行
- ② 新耐震基準に不適合

【利用状況】

- ① 年間利用者は約6.8万人(入館者16万人)
- ② 年間運営費約3.1億円(一部分館及び図書室経費を含む)
- ③ 立地状況はバス路線・幹線道路沿線外
- ④ 住民1人あたり貸出冊数は3.3冊(全国平均5.2冊) ※全館
- ⑤ 市内類似施設 : 県立図書館

※ほかに図書館分館が同一地区に2館、学習センター図書室が各地区単位で16室

5 老朽4施設の状況について

④ 中央学習センター(昭和34年竣工:築59年)



【施設基礎情報】

所在地 : 福島市松木町
構造 : 地上3階・地下1階(RC造)
(公会堂と合築)
延床面積 : 2,009㎡
駐車場 : 26台
設備 : 講義室×5/和室×2/ホール×2

【施設概要】

市民の生涯にわたる学習活動を推進し、市民の教養の向上、生活文化の振興及び社会福祉の増進を図るために設置され、公民館事業や貸館等による生涯学習活動の支援を行う中央地区の地域コミュニティの中核施設で、優先的開設避難所でもある。学習センター相互の連絡調整を図る中央館としての機能も有する。

【施設現況】

- ① 築59年経過により施設老朽化が進行
- ② 新耐震基準に不適合

【利用状況】

- ① 年間利用者は約5万人、平均稼働率40%
- ② 年間運営費約8千万円
- ③ 立地状況はバス路線・幹線道路沿線外
- ④ 市内類似施設
アオウゼ、こむこむ、福島テルサ、市民会館 等

6 市役所本庁舎西棟(建設延期中)について

(1)復興事業優先のため、建設を延期(H23~)

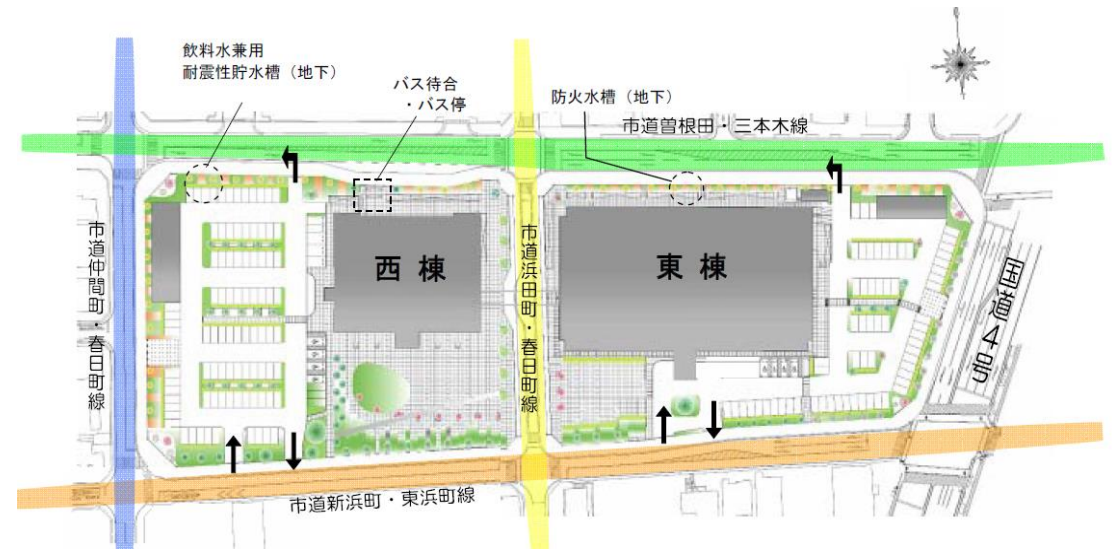
(2)現計画

- ①地上5階、地下1階建ての庁舎建設を東棟の西側敷地に予定
- ②施設機能として、「市民利用施設」、「議場」などを計画
- ③災害時は「市民利用施設」、「市民広場」を避難場所として利用する計画

・建物地下には非常食等を保管する

「備蓄倉庫」の設置

・敷地地下には100m³の「耐震貯水槽」
(飲料水等へ使用)を設置



7 中心市街地の他の公共施設の状況について

<p>①福島消防本部/ 福島消防署 所在地:福島市天神町 (築46年)</p>		<p>【現況】 《行政系施設》 建物:地上3階(RC造)/延床1,445㎡/合築 機能:①消防庁舎(本部5課)及び福島消防署 ②高機能消防指令システムによる、消防救急 受付指令業務(※システム更新:平成38年度)</p>	<p>【課題・調整方針等】 ①建物は新耐震基準を満たしておらず、早期に建替えを検討 ②消防業務広域連携も踏まえ拠点性考察必要</p>
<p>②音楽堂/働く婦人の家/ 勤労青少年ホーム 所在地:福島市入江町 (築34年)</p>		<p>【現況】 《市民文化系施設/産業系施設》 建物:地上3階・地下1階(SRC造)/延床7,786㎡/合築 機能:①(音):音楽ホール(1,002席)ほか/年15万人利用 ②(働):講習室等4室/年2.3万人利用 ③(勤):談話室等6室/年3.5万人利用</p>	<p>【課題・調整方針等】 ①建物は新耐震基準で、長期的な維持が期待 ②稼働率が高いが、音楽以外の多面的活用に課題</p>
<p>③草心苑 所在地:福島市仲間町 (築30年)</p>		<p>【現況】 《社会教育系施設》 建物:地上2階(木造)/延床226㎡/寄附物件 機能:①茶室等6室 ②年約4千人利用 ③駐車台数4台</p>	<p>【課題・調整方針等】 ①木造建築物であり、老朽化が進行 ②将来、類似施設との集約化や機能転換も検討</p>
<p>④古関裕而記念館 所在地:福島市入江町 (築29年)</p>		<p>【現況】 《市民文化系施設》 建物:地上2階(RC造)/延床656㎡/②に集約配置 機能:①名誉市民で作曲家・古関裕而の資料の 収集・保存・展示等を目的とした施設 ②展示室ほか/年1.5万人利用</p>	<p>【課題・調整方針等】 ①建物は新耐震基準で、長期的な維持が期待 ②本市音楽文化の振興にとって重要な施設</p>

7 中心市街地の他の公共施設の状況について

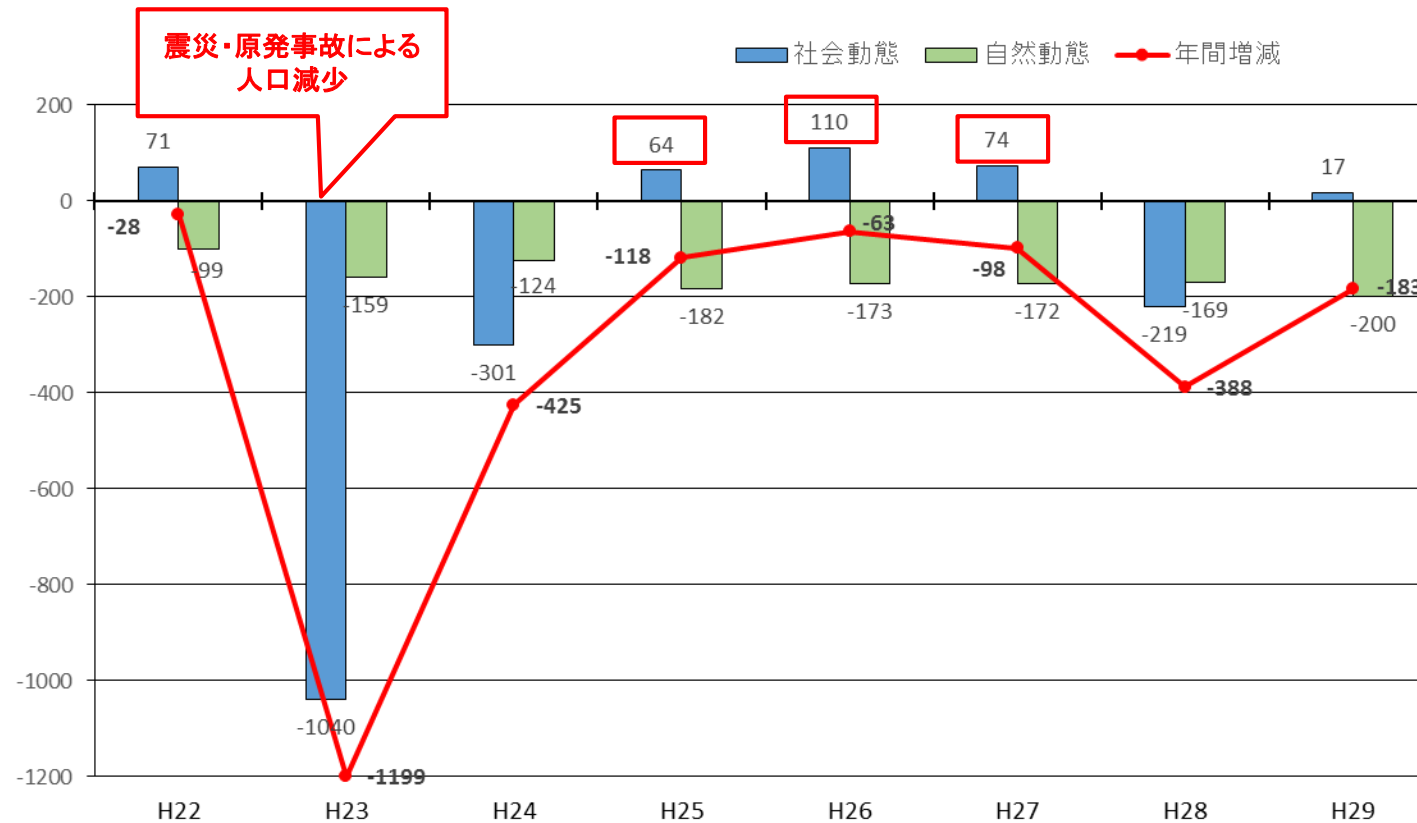
<p>⑤福島テルサ</p> <p>所在地:福島市上町 (築22年)</p>		<p>【現況】 《市民文化系施設》 建物:地上6階・地下1階(SRC造) / 延床9,649㎡ 機能:①ホール(473席)、楽屋、会議室等14室 ②年14万人利用 ③福島駅徒歩圏に立地</p>	<p>【課題・調整方針等】 ①建物は新耐震基準で、長期的な維持が期待 ②近隣に類似施設が多数存在</p>
<p>⑥産業交流プラザ (コラッセふくしま内)</p> <p>所在地:福島市三河南町 (築14年)</p>		<p>【現況】 《産業系施設》 建物:地上13階・地下1階(S造) / 市延床1,518㎡ 県・市区分所有施設 / 図書館分館併設 機能:①展示室(288㎡)、レンタルオフィス、会議室等8室 ②年9万人利用 / 福島駅徒歩圏に立地</p>	<p>【課題・調整方針等】 ①縣市連携による産業振興(中小企業)の拠点施設 ②県施設も含めた現有コンベンションの機能性確保</p>
<p>⑦こむこむ</p> <p>所在地:福島市早稲町 (築13年)</p>		<p>【現況】 《子育て支援系施設》 建物:地上4階・地下1階(SRC造) / 延床9,886㎡ / 合築(NHK福島放送局) / 図書館分館併設 機能:①ホール(296席)、学習室、展示室等13室 ②年27万人利用 / 福島駅徒歩圏に立地</p>	<p>【課題・調整方針等】 ①建物は新耐震基準で、長期的な維持が期待 ②貸館機能については、近隣に類似施設が多数存在</p>
<p>⑧御倉邸</p> <p>所在地:福島市御倉町 (築90年)</p>		<p>【現況】 《公園施設》 建物:地上1階(木造) / 延床404㎡ / 旧日銀支店長役宅 機能:①和室、洋室等6室 ②年2万人利用 / 福島駅1km圏に立地</p>	<p>【課題・調整方針等】 ①建物は戦前の歴史的建造物を利活用 ②都市公園施設であるが、草心苑と機能性は重複</p>

7 中心市街地の他の公共施設の状況について

<p>⑨写真美術館/ 市民ギャラリー 所在地:福島市森合町/ 福島市置賜町 (築96年/築45年)</p>		<p>【現況】 《市民文化系施設》 建物:(写)地上2階(石造)/延床404㎡/震災後休館 (市)地上3階(RC造)/延床844㎡ 機能:①(写・市)ギャラリー等 ②(写)年1.6万人(※H20)/(市)年8千人 ③(市)福島駅徒歩圏に立地</p>	<p>【課題・調整方針等】 ①(写)建物は市指定文化財で歴史的建造物であるが石造構造で保持に課題 ②(市)写真美術館の分館であり建物の老朽化が進行</p>
<p>⑩アクティブシニア センター・アオウゼ 所在地:福島市曾根田町 (※民間所有 築20年)</p>		<p>【現況】 《市民文化系施設》 民間建物:地上6階(S造)/複合ビル(商業・公共) 市借用5,684㎡(全体58,239㎡) 機能:①ホール(403㎡)、活動室、和室等12室 ②年60万人入館 ③福島駅徒歩圏に立地</p>	<p>【課題・調整方針等】 ①福島駅北側と福島駅を結ぶ回遊軸機能は、今後も確保が必要 ②近隣に類似施設が多数存在</p>

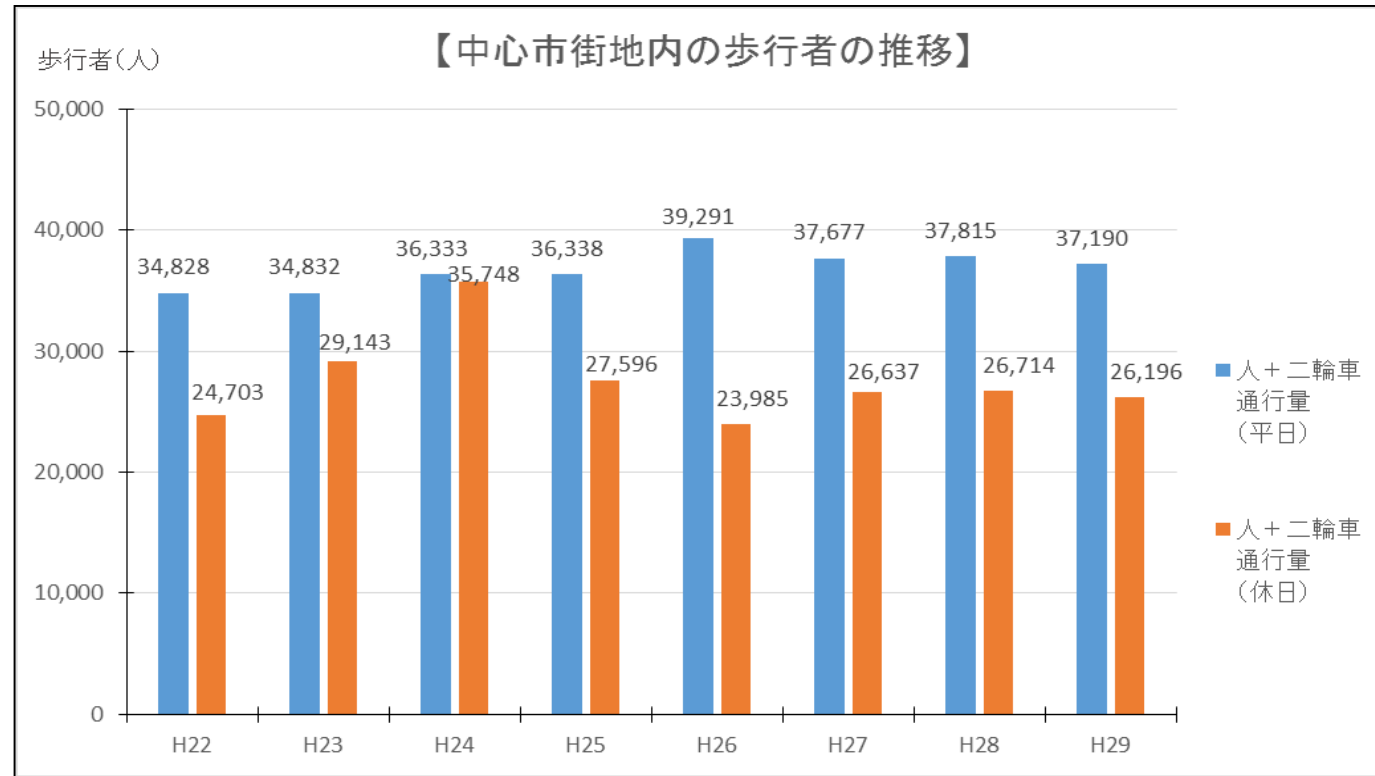
8 中心市街地の状況について

(1) 中央地区の人口動態の推移(各年10月1日現在)



8 中心市街地の状況について

(2) 中央地区の歩行者通行量

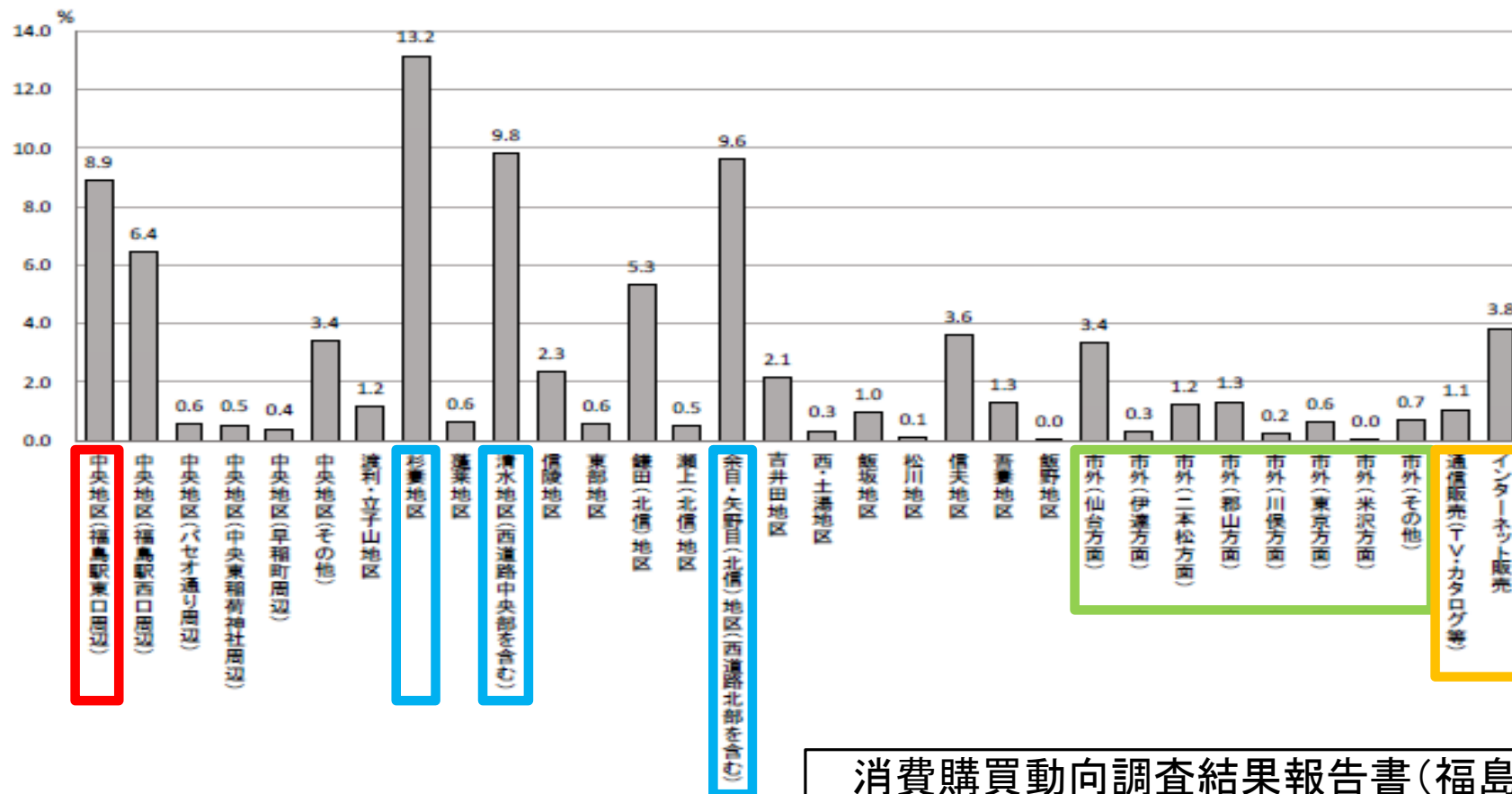


資料) 商店街変動調査結果報告書 (福島市商業労政課)

8 中心市街地の状況について

(3) 市内における買物場所とその利用率の推移①

図18 全買物品目における買物場所



消費購買動向調査結果報告書(福島市:H29)より

8 中心市街地の状況について

(4) 市内における買物場所とその利用率の推移②

表6 調査年次別買物場所利用率の推移

単位：%

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
平成14年度	中央(駅東口 周辺)15.8	清水 13.0	杉妻、余目・矢野目(北信) 11.2		中央(駅西口 周辺)9.3
平成17年度	杉妻 14.5	余目・矢野目 (北信)12.6	清水 11.9	中央(駅東口 周辺)11.7	中央(駅西口 周辺)8.2
平成20年度	余目・矢野目 (北信)12.8	杉妻 11.6	清水 11.3	中央(駅東口 周辺)11.1	中央(駅西口 周辺)8.2
平成23年度	杉妻 12.2	余目・矢野目 (北信)12.0	中央(駅東口周辺)、清水 10.3		中央(駅西口 周辺)6.4
平成26年度	杉妻 13.2	余目・矢野目 (北信)11.5	中央(駅東口 周辺)10.5	清水 9.8	中央(駅西口 周辺)7.3
平成29年度	杉妻 13.2	清水 9.8	余目・矢野目 (北信)9.6	中央(駅東口 周辺)8.9	中央(駅西口 周辺)6.4

(※1) 買物12品目

外出着、ふだん着、下着、靴・鞆・ハンドバッグ、化粧品・医薬品、時計・カメラ・眼鏡・貴金属、スポーツ・レジャー用品、家具・室内装飾、家庭電化製品、書籍・CD・文具、食料・嗜好品、家庭・園芸・ペット用品

消費購買動向調査結果報告書(福島市:H29)より

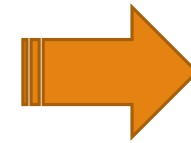
8 中心市街地の状況について

(5) 中心市街地の状況

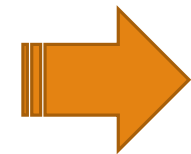
- ・駅前地区における賑わい・商業機能の低下
- ・民間所有施設においても老朽化が進行

一方で

- ・駅前地区への県立医科大学の新学部建設
- ・大原総合病院の移転再整備
- ・民間による駅前再開発の動き
- ・浜通り地域での県イノベーションコースト構想



賑わい創出の
必要性



高次都市機能の
集積の可能性

官民連携の
可能性

9 コンベンションについて

(1) 駅前地区へのコンベンション機能強化の意義

- ・交流人口拡大による駅前需要の創出と、復興の推進
- ・会議開催、宿泊、飲食、観光等による経済波及効果
- ・ビジネス・イノベーションの機会の創造と、都市の競争力の強化
- ・市の玄関口、風格ある県都の顔としての福島駅前へ
- ・歴史、文化が感じられる風格あるまちづくりの推進



官民連携による賑わい創出・中心市街地活性化

9 コンベンションについて

(2) コンベンション施設とは

- ①多目的ホール・・・広々とした空間の平土間式のホール
- ②大ホール・・・段床式で固定席を有するホール
- ③展示場・・・大型の搬出入口を有する、柱のない大規模な空間
- ④会議室群・・・収容人数の異なる複数の会議室や研修室。中規模な会議から、学会等の分科会、各種研修会に対応

9 コンベンションについて

(3) 本市コンベンション施設の特徴と課題

① 多目的ホール(2施設) コラッセふくしま・アオウゼ

福島駅からのアクセスがよく、集客面でポテンシャルを有しているが収容規模が小さい。



コラッセふくしま／多目的ホール(369㎡)



アオウゼ／多目的ホール(403㎡)

9 コンベンションについて

②大ホール(7施設) 福島テルサ・パルセいいざか・福島県文化センター・こむこむ・福島市音楽堂

福島市公会堂(休館)・福島県教育会館

ア) 駅から徒歩圏内の施設は小規模

イ) 大規模な施設は駅から車で10分以上かかる。

ウ) 施設自体や附帯設備に老朽化が見られる。



福島市公会堂 (1,273席)



こむこむ (296席)



福島テルサ (473席)



パルセいいざか (1,940席)



福島県文化センター (1,752席)



福島市音楽堂 (1,002席)



福島県教育会館 (626席)

9 コンベンションについて

③展示場(0施設)

展示室(3施設) コラッセふくしま・福島県文化センター・こむこむ

ア) 他市のような大規模な展示場を備えていない。

イ) 3施設とも展示室として多目的ホールに近い機能で小規模。



コラッセふくしま／企画展示室(288㎡)



福島県文化センター／展示室(500㎡×2)



こむこむ／企画展示室(179㎡)

9 コンベンションについて

④会議室群(6施設) コラッセふくしま・アオウゼ・福島テルサ

パルセいいざか・福島県文化センター・福島県教育会館

駅から徒歩圏内の会議室・研修室は、比較的収容規模が小さい。



コラッセふくしま (9室/99人)



アオウゼ (5室/50人)



福島テルサ (6室/96人)



パルセいいざか (2室/180人)



福島県文化センター (2室/200人)



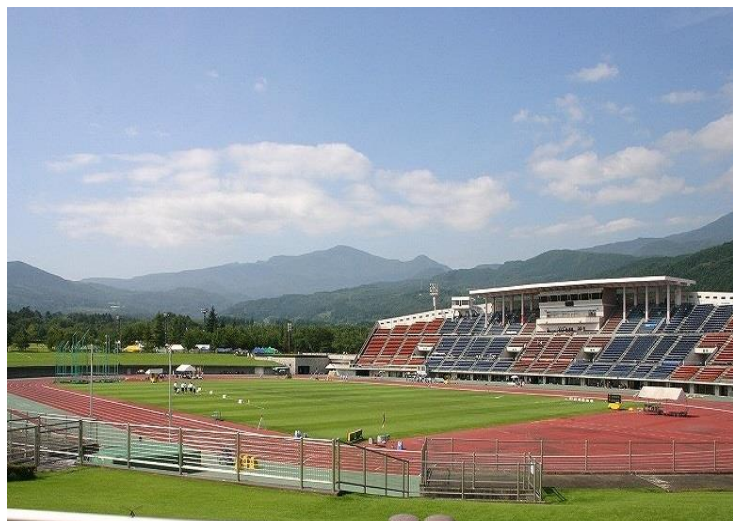
福島県教育会館 (3室/80人)

※()内は会場数/1室あたりの最大収容規模

10 サッカースタジアムについて

(1) 施設の現状

- 市内には、サッカーに使用できる施設として、信夫ヶ丘競技場、とうほう・みんなのスタジアム、十六沼公園サッカー場等があるが、Jリーグの昇格条件(椅子席がJ1は1万5千席以上、J2は1万席以上等)を充たす施設が無い



- ①信夫ヶ丘競技場
メインスタンド(収容人員5,000人)／バックスタンド(収容人員11,400人)／合計16,400人
- ②とうほう・みんなのスタジアム(県営あづま陸上競技場)
メインスタンド(収容人員6,500人)／芝生スタンド(収容人員14,500人)／合計21,000人
- ③十六沼公園サッカー場
人工芝コート2面、クレーコート1面、
天然芝コート2面(整備中)

10 サッカースタジアムについて

(2) 施設整備の効果と課題

効果 ⇒ トップレベルの試合や全国大会等の開催によるスポーツ文化の向上
交流人口の拡大
新たなコミュニティの創出

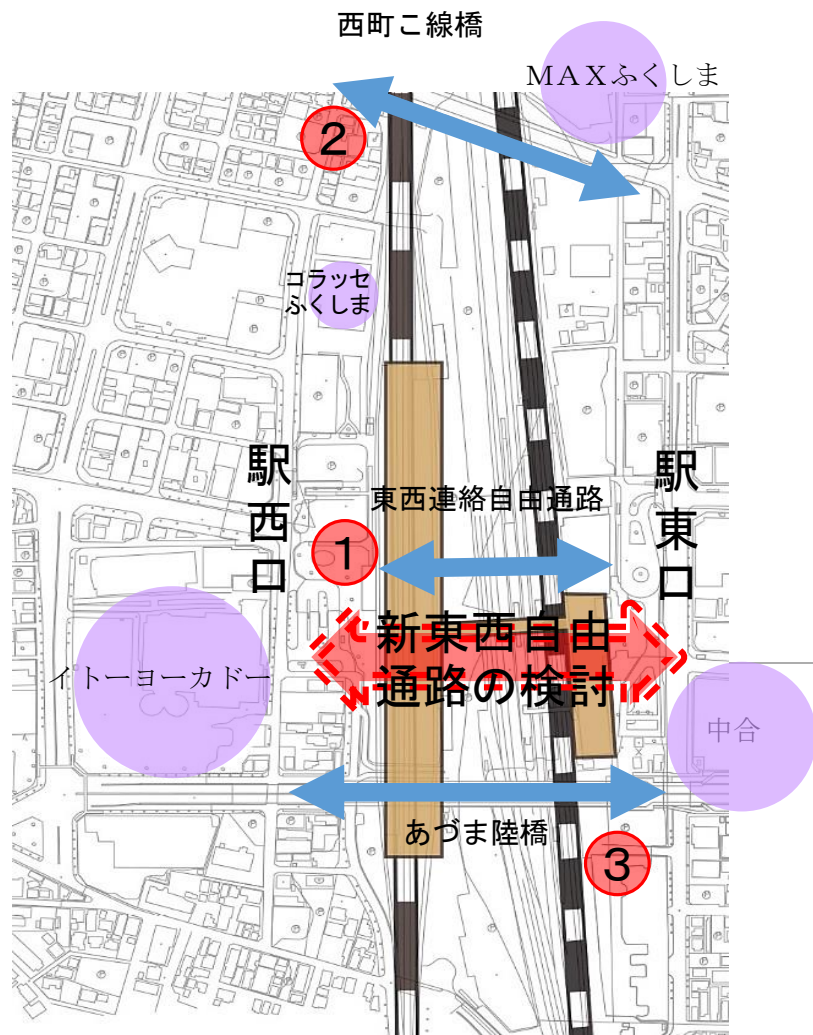
課題 ⇒ 建設・維持管理に係る費用、実施主体、運営方法

(3) 福島ユナイテッドFC(J3)のホームゲーム開催状況

(2018年4月末)

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
試合数	18	19	15	16	4
入場者数	23,769	24,497	25,172	23,762	6,010
平均入場者数	1,321	1,289	1,678	1,485	1,503

11 福島駅新東西自由通路について



◆ 駅東西の利用しやすい移動環境の充実が必要



1 混雑時は移動しにくい
(東西連絡自由通路)



2 自転車での登坂が大変
(西町こ線橋)



3 階段を利用しないと駅東口に行けない
(あづま陸橋)

◆ 駅や東西の主要集客施設を結ぶ歩行・回遊環境の強化が必要

◆ 新東西自由通路の検討 ◆

- 駅東西の連絡機能 —
- 駅機能と回遊環境の強化
- 既存施設との連携強化



◆ 検討における課題 ◆

- 自由通路の利用促進を図り、歩行者の利便増進と駅周辺の活性化につなげ、投資効果を高めること
- 一体的な改良が望まれる駅関連施設・駅ビル等を含めた民間整備との連携

12 これらの課題解決に向けて

(1) 公共施設等総合管理計画の視点から

限られた財源の中で、よりよい行政サービスを提供し続けていくためには、既存の老朽公共施設をすべて更新建替えることは困難

➡ 保有する施設を「市全体」として捉える

(人口動向、ニーズ、立地状況、類似施設の状況を踏まえ、機能の複合化(集約)や転換を検討)

➡ 「必要な機能の選択」、「優先順位づけ」の検討

(2) 中心市街地活性化の視点から

公共施設の機能強化により、賑わいの創出や交流人口の拡大、市民の利便性向上を図る

➡ 強化すべき機能、統合・複合化すべき機能はあるか、
その機能はどこにあるべきかの検討

事務連絡

※ 次回の検討委員会は、

とき 7月4日(水)13:30～

ところ 市役所4階 庁議室

での開催を予定しています。

※ 本日の説明内容を踏まえ、次回検討委員会では、各委員の皆様からご意見を頂戴したいと存じます。

大変、恐縮ですが、6月22日(金)を目途に事務局までご意見をお寄せください。